

後方支援も敵にとっては敵

無職

(大阪府 91)

海外で活動する自衛隊の新任務が焦点である。本紙には「後方支援の自衛隊員が捕まったら」との記事が先日載った。米軍などの後方支援をして隊員が捕まえられたら大問題になる。

政府は「日本は紛争当事国となることはなく、自衛隊員が捕らわれてもジュネーブ条約上の『捕虜』になることはない」と言う。条約は兵士の人道的扱いを保証するのにこんな説明では混乱する。後方支援もあくまで軍隊の任務で、日本も事実上は当事者だ。場合によっては襲撃され、捕虜になることもある。私は戦時中、旧制熊本高等工

業学校の学生だった。学徒動員で昭和19(1944)年から1年間、海軍施設部へ。銃を取るわけではなかったが飛行場を造り、トンネルを掘り、大砲を据え付けた。当時、「輜重輸卒が兵隊ならばチヨウやトンボも鳥のうち」という言葉を聞いた。

輜重輸卒は武器弾薬など軍需品を運ぶ兵隊のこと。銃を持って戦闘しないから兵士ではないと輜重兵らを軽んじた言葉だが、第一戦で戦わなくとも軍隊の兵士であることに間違いはない。

自衛隊の海外での主な任務は昔の輜重兵と同じである。敵方にとってはあくまで敵。襲撃され、戦死もあり得ると覚悟しておく必要があると思う。